

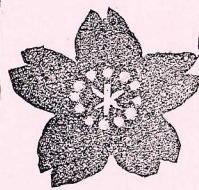
さくら会だより

No. 5

平成25年1月

K.

乳がん体験者の会



参加して
きました

第9回 置賜乳腺ネットワーク

平成24年11月20日(火)

グランドホクヨウ米沢にて

「さくら会」は、乳がん体験者の交流のための会です。

現在、乳がんの治療を受けている方、過去に乳がんを体験した方たちが
2ヶ月に1度、集まって交流しています。

—12月5日(土) さくら会の報告です。

街も病院の中もクリスマス^{*}ムードいっぱいの中の「さくら会」でした。

今回は入院中の方3名も参加して下さいました。皆で^{*}ワンワールドプロジェクト
から提供された、暖かそうな帽子やくつ下、脱毛した
頭皮にやさしいコットンのヘア帽子などを選びながら、楽しく
交流しました。毎回、少しずつ参加者が増えていくのは
嬉しいことです。先にがん治療を経験した私たちの話が



少しでも、つらい治療の支えになればと思います。また、今回はリハビリ科の先生

も2人来て下さいました。手術後のリハビリや、リンパ
浮腫のケアでお世話になった先生方です。
さらに病棟の看護師さんも仕事帰りに
かけつけて下さって、会はますます盛り上りました。



次回のさくら会 — 2月16日(土) 予定

場所 3階 第1会議室

時間 9:00~12:00

お待ち
しています😊

—都合のつく時間においでください—

^{*}「ワンワールドプロジェクト」とは
～みんなでひとつになろう～
2011年4月に「被災地のがん患者さんにかつらやヘア帽子を
届けよう」という想いから立ち上ったプロジェクト。全国から
集まったかつら・ヘア帽子・かつら用ヘア用品などを東北各地
の病院に送っています。

一般演題は 舟山病院薬剤科・近藤信司さんの「笑顔をもらう喜びのもとで
～日々の病棟薬剤師の業務から～」、三友堂病院緩和ケア病棟 音楽療法士
小笠原未希さん「夏の恋の思い出～世界に一つだけのオリジナル曲～」の2つ
でした。近藤さんは再発乳がんの患者さん、小笠原さんは
化学療法の副作用に悩む患者さんのお話でしたが共通して感じた
のは、病気と患者を切り離さず、まろごと向き合おうという
医療者の真摯な姿勢です。特に小笠原さんのお話は、音楽療法が



どのように進められるかを知ることができて、興味深いものでした。

特別講演は自治医科大学看護学部教授・宮林幸江先生の
「悲嘆から起こる心身の変化と心のケアのポイント」。宮林先生は
日本グリーフケア協会の会長でもあります。「グリーフ」とは悲嘆、悲哀
のこと。グリーフケアとは、大切な人と死別した後、自然に湧き出してくる複雑な感情に



折り合いをつけるための作業とその時間を指すそうです。がんを
経験した私にとっては、正直言ってあまり触れたくない話でした。しかし、
「死」を避けることは誰にもできません。その悲しみや苦しみに
寄り添う医療があることを知って、ありがたいことだと感じました。

宮林先生のお話はご自身の体験に基づいていて、説得力がありました。

この冬も寒いうえに
雪も多くて大変ですね。あと
少しがんばりましょう!

